”農地・水・環境保全”
水土里のネットワーク通信

＜ 第 19 号 ＞
２００９．５．１発行
島根県農地･水･環境保全協議会

～環境保全型農業を進めるために～

「堆肥の品質向上と土づくりのための研修会」開催!!

２月１２日（木）、「堆肥の品質向上と土づくり」をテーマに、ビッグハート出雲で、耕種農家及び畜産農家、農地・水・環境保全向上対策の取組団体など約１６０名が参加し標記研修会を開催しました。

はじめに、県農畜産振興課　小西管理監が、「県では、環境と調和した農業を推進しているところ。その実現には、土づくりの基本となる良質堆肥の生産と利用拡大が不可欠。」と環境農業推進と堆肥利活用の必要性を説明しました。

最初の講演では、農業・食品産業技術総合研究機構 上席研究員の本田善文先生から、堆肥化の基本条件（栄養分、水分、空気等）や堆肥化技術の従来版から新技術の紹介、さらに土壌分析をふまえた施肥設計など、堆肥の生産から活用方法まで幅広くお話をいただきました。

次の講演では、徳島有機農業推進協議会の中村隆宏氏から、鶏ふんの堆肥供給システムを構築された徳島県の地域プロジェクトの事例を紹介していただきました。地域内の有機資源を上手に利用して環境保全型の農業を進められた実践は、本県にも参考となるものでした。

盛りだくさんの内容でしたが、耕種農家と畜産農家が共に集まり、お互いの技術向上と各地域での一層の連携を進めるきっかけとなったのではと感じる研修会でした。

尚当日は、優良な堆肥生産者の表彰式があり、下記の方が表彰されました。

＜平成２０年度堆肥品質共励会　受賞者＞

県知事賞	きすき有機センター	〔鶏ふん〕	（雲南市）
優秀賞	中村一夫	〔牛ふん〕	（松江市）
〃	きすき有機センター	〔牛ふん〕	（雲南市）
〃	マルナガファーム	〔豚ふん〕	（江津市）

活動事例紹介　　活動組織名：下出来洲ＫＨＣ

下出来洲を花いっぱいに・・・　花のまちプロジェクト

子供たちがプランターへ
花の苗を植栽

私たちの組織は「下出来洲ＫＨＣ」といいます。
「ＫＨＣ」とは、Ｋは環境、Ｈは保全、Ｃはクラブ、このそれぞれの頭文字をとって地域の環境を願って名付けました。

プロジェクトの看板を設置

この下出来洲地区は、農地・水の活動に取り組むずっと以前から、町内会や営農組合を中心に地域住民の連帯意識が強く、イベントなども開催して、子供たちのにぎやかな声が絶えない活気あふれる自慢の地域です。

農地・水の活動に取り組んだことをきっかけに女性部を中心にして、「花のまちプロジェクト」を立ち上げました。

農道北側約２０軒、南側約１０軒の農家から畑を幅１ｍずつ提供してもらい数種類の花を植栽しています。

子供たちも協力してマリーゴールドなどをプランターに植え、春、今、まさに道路沿いに植えたチューリップなどがかわいい花を咲かせています。

昨夏は、ひまわりも大きな花を咲かせみんなを喜ばせてくれました。水やりなど地域の皆さんの協力がりっぱな花を咲かせたこととうれしく思います。

これからも、四季おりおりに下出来洲花街道は花とともにみなさんの笑顔を運んでくれることを期待し、もっともっと範囲を広めて花の街を実現させたいと思います。

このほかには、地域内のゴミ拾い、開水路の泥上げ、また、長い間で堆積し、人力では無理な堆積土は重機を利用しての泥上げなどを行いました。

地域の広報活動としては、３ヶ月に一回程度「しもできす KHC だより」を発行して、活動の報告やお知らせを掲載し、楽しみながらの活動を目指しています。

今年度も花プロジェクトの活動を継続しつつ、自然環境にも目を向け、地域内の水路にはどんな生物が生息しているかなど子供たちと一緒に観察してみようと思っています。

共同活動～春先からのポイント～

忘れていませんか!? 写真

桜前線も北上し新緑の季節となりました。

いよいよ農作業も本番、各活動組織の皆さんは忙しい農作業の合間にも拘らず、共同活動も熱心に展開されていることと思います。ところで**基礎活動の部分において、写真等の撮り漏らしがありませんか？**この基礎活動、従来より暮らしに同化し、当たり前のこととして実践されてきた活動であるがゆえに、案外写真の撮り忘れが多いようです。ふっと気づいた時に、撮っておくようにしましょう。

事務局への相談、照会等のなかで写真が足りない項目が、この春先のところでも散見されます。以下特に不足気味の項目を掲げますのでご注意を！！

■ 点検	各施設の活動の下見、点検。
■ 配水操作	開水路、パイプラインの水管理、いつもの作業です。
■ ため池の定期的な見回り	雨降り後とか、随時様子見されてますね。
■ 農地の草刈り	特に個々においての管理は、後できれいになった状態でもＯＫです。

点検

配水操作

ため池の定期的な見回り

農地の草刈り

各種草刈機実演について

先月号（第 18 号）でご案内しました「各種草刈機貸出」につきまして、問い合わせ等が事務局にきていますが、乗用大型草刈機、湿田・棚田用草刈機につきましては、事故防止のため、6 月中旬県内で実演（デモ）を実施してから、貸出しを開始する予定です。

耕作放棄地等の草が伸び、それまでに貸出しを希望される活動組織は、自走式雑草刈機、樹木等粉砕機等で対応していただきますよう宜しくお願いします。

第１３回しまねの農村景観フォトコンテスト

～　テーマ：農村からのメッセージ　～

農山村の四季の移り変わり、働く喜び、生活の様子、地域農林業のありさまなど幅広く農山村の風景をとらえた写真。また、農業、林業、農山村が地域の生活や県土の保全などに果たしている役割を視点にとらえた写真。

第 12 回「最優秀賞」

☆部　　門　　「風景部門」　「人物部門」　「施設部門」　「イベント部門」
☆応募点数等　　一人何点でも可。ただし島根県内で撮影した未発表のものに限ります。
☆応募締切り　　平成 22 年 2 月 1 日
　　お問い合せ　水土里ネット島根まで（詳しくは同封のチラシをご覧ください）

第 12 回「農地・水・環境保全活動特別賞」

ご存知の通り、特別賞の中に「農地・水・環境保全活動特別賞」も設けております。
共同活動での名場面（迷ショット）をどんどん応募して下さい！
尚、応募の際には、コメント欄に「農地・水・環境保全活動」の一場面であることを明記して下さい。

～　編集後記　～

「貿易立国」としての日本経済の行方に暗雲が!!財務省が発表した貿易統計速報では貿易収支が 28 年ぶりに赤字転落!!構造改革の名のもとに、全て市場経済に一任との立場を取りつづけ、気がついたら「ものづくり日本」の国際競争力が落ちていたのでは？そして食糧自給率も現在 40%。ＷＴＯ交渉や各国との自由貿易協定が進み、ゼロ関税になれば最悪の場合、食糧自給率 12%、米の自給率 1.4%との農水省試算。そうなったとき、地方、地域はどうなるのか！たとえ輸出産業がまだ伸びて、食糧を買い続けることが出来たとしても、輸入のえさと食糧で膨大な窒素が環境に排出され、農地受入限界比率は今でも約 2 倍弱もあるのに、それが約 3 倍程度になるとの説もあり。窒素まみれの日本の水は飲めなくなるとか！食糧自給できない国は、常に国際的圧力と危険にさらされていることをしっかり自覚して、循環型農業で地域を守りつづけ、地域からＷＴＯ交渉でも諸外国と同様に「したたか外交」をやるよう声を大にしていく時が来たのでは!!

～農地・水・環境保全向上対策に関することは！～

◆島根県農地・水・環境保全協議会まで
　　〔事務局〕水土里ネット島根　Tel0852-32-4141　Fax0852-24-2848
　　http://www.shimanedoren.or.jp/arkadia/kai_set.htm
◆島根県農林水産部農村整備課資源保全スタッフ（共同活動）　Tel0852-22-6262
　　〃　　農畜産振興課有機農業グループ（営農活動）　Tel0852-22-6477
　　http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/nougyo/kojo_taisaku/
◆又は県内各農林振興センター、最寄りの各市町村担当課までお問合わせ下さい。